

Covid-19による「なかよし広場」ふれあい休止期間中における取り組み

佐藤安祐佳

(横浜市立野毛山動物園)

新型コロナウイルスの影響により、野毛山動物園「なかよし広場」では2020年2月から2022年7月の約2年半、小動物とのふれあいを休止していた。ふれあいを再開するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策と動物福祉の両面に配慮したふれあい方法の確立が必要となった。今回、ふれあい方法の改善、モルモットへの馴致、試行実験の実施などの取り組みを報告する。

ふれあい方法の改善では、動物がふれあいに供するのは1個体につき1日1回のみとし、モルモットとハツカネズミへの負担を軽減させるほか、参加人数を制限し、インターネットでの事前予約制にするなど大幅な変更を加えた。また、モルモットは自ら箱に入った個体のみをふれあいに供することとし、箱に入るか入らないかの選択ができるように馴致を行った。さらに、従来の方法から変更を加えた内容でなかよし広場でのふれあいは再開可能なのか、職員を対象にした試行実験（2日間）と一般の来園者を対象にした試行実験（15日間）を行った。

これらの取り組みにより、動物がふれあいに供する時間の大幅な減少や落下事故防止、飼育員側の作業の軽減につながった。モルモットへの馴致を行うことでモルモットに対して『選択権』を与えることができ、動物福祉の向上にもつながったのではないかと考える。